**第２回植物園シンポジウムプレイベント観察会**

**2005年5月27日(金) 15:00～16:30　晴れ**

**☆ガイドレポート植物編**

今回の観察会は、同日夕刻に主催した第２回京大植物園を考える会シンポジウム「植物園はいま」のプレイベントとして行われました。午後３時過ぎから９０分間という形式でした。

今年はユクノキが満開になりそうです。毎年部分的な開花はしますが満開になるのは７年ぶりといわれています。５月２３日に行われた定例観察会からわずか４日しか経っていないにもかかわらず、いまにも咲きそうなくらい花序（花の集まり）にエネルギーが満ちていました（註：６月３日に満開をむかえました）。

定例観察会とは異なり、今回は京大植物園の成り立ち、基本コンセプトを解説しながらゆっくりと１周しました。

京大植物園は８０年以上の歴史を有します。白川の扇状地だった土地で、放棄水田だった更地に築山や岩山を配し、琵琶湖疎水を引き込むことによって沼地、大小２つの池がつくられています。また温室や水槽も配されています。粗放的管理をおこなってきたことによって、園内には林ができ、その高さ（林冠の高さ）は１５mを越えています。植物が安定して生育し繁殖（開花・結実）することによって鳥類、昆虫類、貝類、真菌類など多様な生物群が生息する環境が成立しています。とくに多様な鳥類相を有すことから、園内にはさまざまな植物の種子が運ばれてきますし、園内から園外へ運ばれてもいます。

しかし、まったく管理がされなかったわけではありません。好例としては、約３０年前のエノキやムクノキの択伐が挙げられるでしょう。これらは京都近辺とくに河川氾濫原の自生種であり、鳥によって生息地を拡げます。それらが占める割合があまりに高くなったと判断された村田源氏（元京大理学部講師）らが、それら樹種の一部を伐採したのです。

今回の感想を拝読したところ、多くの参加者が「植物園」から連想される「お花畑」とは異なった、一つの生態系が形づくられているこの京大植物園の特徴に興味を抱かれたようです。現在の京都大学理学部内では、研究利用も実習での利用もあまり行われていないようですが、我々のような観察会利用も含め、研究、教育、地域貢献の３つの柱で価値づけていけば、皆さんの感想にもあったように、京都市街であることを忘れさせてくれるこの空間を維持することにつながるのではないでしょうか。

ユクノキ（開花間近）、カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ（結実中）、サギゴケ、トキワハゼ、イモカタバミ、ヘビイチゴ（結実中）、クサイチゴ（結実中）、キツネノボタン、キショウブ、ゲンペイシダレモモ（結実中）、クスノキ、トウサイカチ（結実はじめ）、サイカチ、チャンチンモドキ、シナユリノキ、ニワトコ（結実中）、トチュウ（結実中）、ウツギ、オオシマザクラ（結実中）、ヤマザクラ（結実中）、マグワ（結実中）、テイカカズラなど

ガイド：今村彰生さん（大学共同利用機関法人総合地球環境学研究所）

**☆ガイドレポート昆虫・その他編**

今回のロング観察会では、参加者の方がクヌギの樹液を舐めにきているオオスズメバチを見つけられました。その方から「どこかに巣があるのですか」と質問されて答えに困ってしまいました。吉田山あたりで営巣しているのでしょうか。園内ではあちこちでウツギの花が満開で、たくさんの訪花昆虫が見つかりました。中でも、花やつぼみを食べるトラフシジミの幼虫がいて驚きました。

今回みられた昆虫類は次のとおりです。
クロアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、トラフシジミ（幼虫）、オオスカシバ、クロイトトンボ、ナミアメンボ、ハンミョウ、ニジュウヤホシテントウ、ヒラタハナムグリ、クロウリハムシ、オオスズメバチなど。昆虫以外ではアメリカザリガニとウシガエルのオタマジャクシがみられました。

ガイド：大橋和典(京都大学農学部) 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　京都大学農学研究科昆虫研有志

**☆参加者の感想**

参加者の感想文です。実名・匿名の指定がない方はすべて匿名にいたしました。ご了承ください。

* 昼休みの観察会は知らないが、初めてが今日でよかった。西に傾いた太陽の影はきれいでした。広さではないんだなと思いました。こんなところを子供時代に走り回れたら、どんな人間になってたかな？植物たちの人間観察会の感想をききたい。　　　　　　　　　（近所のかた　山本博子さん）
* 京大構内に植物園があるのも知らず、興味を持って初めて参加させて頂きました。名前は聞いていても実際目にする植物が多く、今村先生の案内も楽しくまた例会に参加したい～と思います。　　　　（学外のかた）
* 生物多様性とは単に種数を意味するのでなく、生物間の関係や生態性の多様な関連なのだということと、植物園はそうした多様な生物がギュっとつまった場所なのだと実感しました。　　　　　　　　（実名OKなのに無記名の京大関係者のかた）
* 京大植物園の歴史についての話をきくのははじめてだったので、80年前にどのような考えでここがつくられてきたのかということが少しわかりました。久しぶりに来ることができ、とてもなつかしく感じました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大関係者のかた）
* 花の盛りにのぞける方向をお願いしたい。特に見せたい花、ユクノキの花の様にファンを集める為に、(インターネットで可)　　　　　（学外のかた）
* いろいろためになった。いろいろな植物が町の中で見れることはとてもうれしい。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 樹木の名前だけ知るだけでも精いっぱいですが楽しいでした。ユクノキを見にきます。都会の中のこの空間、ウグイスの声が聞こえただけでもうれしいでした。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 改めてこの植物園のよさ、めずらしさを認識しました。(とても涼しい)ここちよい。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 静かでとても良かったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* ユクノキの花が咲くのが楽しみ、見に来ます。　　　　　　　　　（学外のかた）
* 多様な植生を残してほしいと思います。　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 大変よかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（森林総研のかた）
* はじめて観察会に参加させていただきました。園芸的な植物園ではなく、生態的な植物園なので、植物の自然の姿がよく観察できてよかったです。80年の植物園、樹木を是非今後も守ってほしいと思います。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた　大谷一弘さん）
* 「理学部」のここへ植物園があるとは、全く知りませんでした。できるだけ自然の状態があるのがよいです。四季毎の変化が、本来みものだと思われます。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた　谷口隆捷さん）
* 野鳥が好きな森とはどんな森かな？なんてことを考えていつも森を見ています。たのしかったです。ときどき足をはこびますね。　　（日本野鳥の会　脇坂英弥）
* こんな近くに、自然があるとは！　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた　林秀治さん）
* 研究の性格上「開かれた機関」の印象が少なかったのですが・・・今後このような姿勢をもっと強く推しすすめられるよう希望します。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学外のかた）
* 植物園開設の経緯やねらいを詳しく教えていただき、ありがとうございました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（京大職員のかた）
* 「豆科の木」があり、そばに大きなさやも落ちていましたが、豆のなる木があることにびっくりしました。近くに住んでいるのですが始めて植物園に入ることができてうれしかったです。勉強になりました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 時間が今日は長かったので、ゆっくりと回ることができて楽しかったです。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた　有元高太さん）